

栗原の稲作通信

第6号 令和8年8月3日発行

宮城県栗原農業改良普及センター

宮城県米づくり推進栗原地方本部

電話番号 0228-22-9404

○今後の栽培管理のポイント

1. 管内の「ひとめぼれ」は減数分裂期を迎えています。今後気温が平年並で推移した場合、管内の出穂盛期は7月31日頃と予想されます。
2. 幼穂形成期から出穂後30日頃までは、品質維持のため「**飽水管理**」を行いましょう。
3. 斑点米カメムシ類の発生が多いことから、穂揃期とその7～10日後の薬剤防除を確実に行いましょう。

1. 気象経過

○7月の気温は概ね平年よりやや高く推移しました。7月第3半旬、第5半旬にまとまった降雨があり、日照時間は平年並～やや多くなりました。

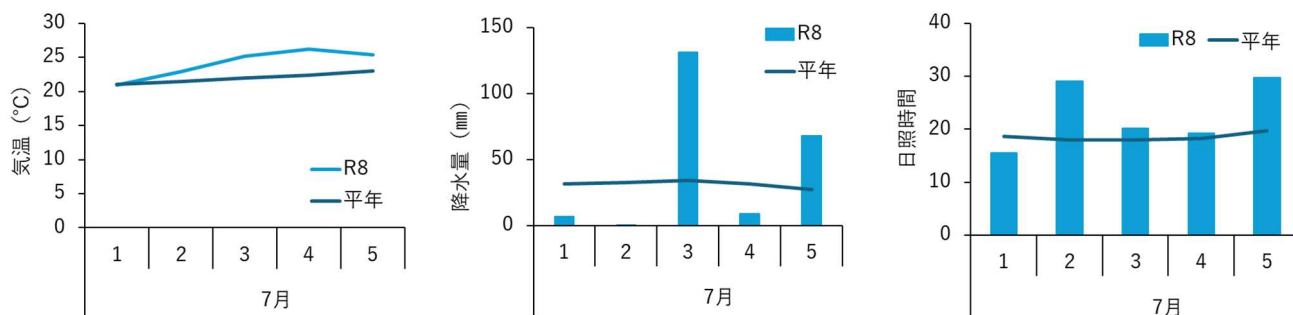


図1 7月の気象経過（築館アメダス）

2. 生育状況（7月21日現在）

1) 移植水稻

○古川農業試験場の5月11日移植の「ひとめぼれ」は、草丈は77.5cm（平年比98%）、茎数は602本/m²（平年比101%）、葉数は11.6枚（平年差-0.2枚）、葉色は38.5（平年差+2.9）となっています。幼穂は33mmで平年より2日遅く減数分裂期に達しています。

○管内の「ひとめぼれ」は、若柳では平年と比べて草丈・葉数は並、茎数は少なく、葉色はやや淡く、幼穂長は32.5mmでした。一迫では平年と比べて草丈はやや長く、茎数は並、葉数は少なく、葉色は淡く、幼穂長は161mmでした。

表1 7月21日生育調査結果

品種	地区	田植日			草丈(cm)			茎数(本/m)			葉数(枚)			葉色(GM値)			幼穂長(mm)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年(%)	平年(%)	本年	前年(%)	平年(%)	本年	前年(枚差)	平年(枚差)	本年	前年差	平年差	本年	前年(mm差)	平年(mm差)
ひとめぼれ	若柳	5/20	1日遅	0日早	76.1	102	99	477	103	87	12.0	0.1	0.3	33.5	0.8	-1.5	32.5	17.7	-0.9
ひとめぼれ	一迫	5/14	1日遅	2日遅	74.2	102	106	404	122	104	11.2	0.4	-1.1	31.7	2.0	-3.0	161.0	27.7	93.4
ひとめぼれ	古試	5/11	同日	同日	77.5		98	602		101	11.6		-0.2	39		2.9	33.0		-13.0
つや姫	築館	5/25	3日早	2日遅	76.8	104	106	453	104	107	11.9	-0.1	0.2	37.8	4.1	-0.5	2.2	1.5	-1.1

2) 乾田直播水稻

○令和7年に比べて、草丈は並、茎数は多く、葉数は並、葉色は同程度となっています。

○幼穂長は2.1mmで、幼穂形成期を迎えています。

3) 生育ステージ予測

○今後の気温が平年並と仮定すると、管内の「ひとめぼれ」の出穂盛期は7月31日頃と予測されます。ただし、今後の気温により生育ステージが予測値から変動することがあるため、ほ場で幼穂長を確認し、生育ステージを確認しましょう。

表2 管内の田植時期別の生育ステージ予測

築館	田植期	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
始期	5月10日	7月7日	7月17日	7月29日
盛期	5月17日	7月11日	7月21日	7月31日
終期	5月24日	7月16日	7月26日	8月5日

注1：生育予測は「発育予測モデル」(古川農業試験場 水田営農部)を使用

注2：アメダスデータは、7月28日までの築館アメダスの実測値、7月28日以降は築館アメダス過去5年平均値（令和3年～7年）を使用

3. 今後の栽培管理のポイント

1) 中干し後から出穂後30日頃までの水管理

○幼穂形成期～出穂・開花期前後は稲体の水吸収量が最も多く、この時期の水分不足は幼穂の発育や開花受精を妨げます。また、出穂後の水分不足は収量・品質を低下させます。

○限られた用水でも水管理が可能な「飽水管理」を行いましょう。

① 基本的な水管理

中干し → 間断かん水（穂ばらみ期） → 浅水湛水（出穂期） → 間断かん水（登熟期）

② 用水の確保が難しい場合や出穂後の登熟期間が高温となる場合の水管理

中干し → 飽水管理（穂ばらみ期 ～ 登熟期）

ほうすいかんり ～飽水管理とは～

従来の水管理方法に比べ、限られた用水で実施可能です。間断かん水に比べ、より土壌を酸化的に保ち、根の活性が高まります。

✓実施時期：有効茎数確保後から出穂後30日頃まで

✓入水目安：水尻を閉めたまま自然落水させ水田の足跡に水がなくなった頃、または番水のタイミングで入水

✓効果：通常の水管理は夜間に水温が下がりづらいため稲体温度も下がらず、光合成で作られた養分を呼吸で消耗 → **白未熟粒の発生を助長**

飽水管理は夜間に稲体温度が下がり、**湛水管理よりも白未熟粒の発生抑制が期待できる**

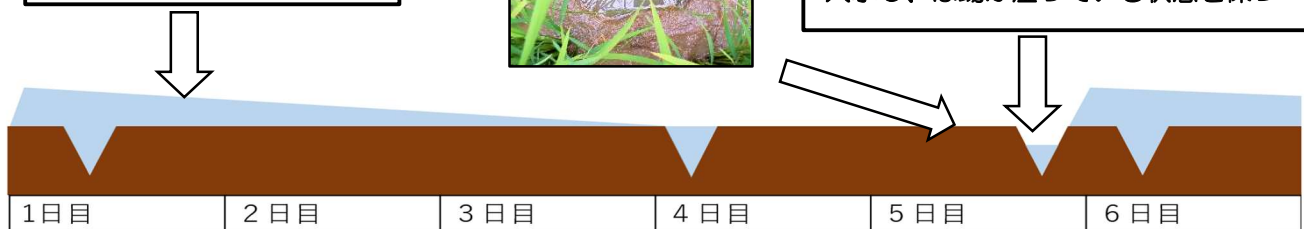
重要：入水が的確に行えるように、水田の溝切りは必ず行いましょう。

<ほ場における飽水管理の例>

水尻を閉め、田面が浸るくらい（ひたひた）に入水



自然に落水して足跡や溝に水が無くなる頃、または番水のタイミングで再び入水し、ほ場が湿っている状態を保つ



※ 日数はあくまで目安です。地域やほ場の実情にあった水管理をお願いします。

図2 ほ場における飽水管理の方法

2) 落水時期の目安は「出穂後30日から40日頃」

- 登熟期間の水不足は、未熟粒の増加や千粒重の低下等、品質・収量を大きく低下させます。
- 落水時期は出穂後30日から40日以降を目安としますが、ほ場や気候条件等によっては機械作業が可能な地耐力が得られない場合があるので、状況に応じて落水時期を決定します。

4. 病害虫防除

病害虫防除所 発生予報第4号 (宮城県病害虫防除所：7/23 発行)

▶斑点米カメムシ類・・・発生量「多い」

発生時期(第2世代成虫発生盛期)「8月第3半旬：8/11～8/15(やや早い)」

- 畦畔の草刈りや牧草の刈取りは、出穂の10日前までには終わらせましょう。出穂直前の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田に追い込むことになるので避けましょう。

- 本年度の栗原市の水稻出穂前後の草刈り自粛期間は **7/21(火) から8/21(金)** までです(栗原市水稻カメムシ被害抑制対策本部)。

▶葉いもち・穂いもち・・・発生量「平年並」

- ほ場を入念に見回り、葉いもちの病斑を確認したら直ちに防除しましょう。

- 特に、萌えみのり、金のいぶき等いもち病に弱い品種や、予防防除を行っていない直播栽培では注意しましょう。

▶紋枯病・・・発生量「平年並」

- 前年に紋枯病が多発したほ場では、穂ばらみ期から出穂期に防除を行うとともに、多発が予想される場合には穂揃期に茎葉散布剤を散布しましょう。

- 病害虫防除所の巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年よりやや低くなっています。

▶稻こうじ病・・・発生量「やや少」

- 穂ばらみ期に低温で、降雨日数が多いと発生しやすくなります。

- 銅剤による防除適期は、出穂10～20日前です。

■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日～8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限などを確認して、定められた方法を厳守しましょう。最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認することができます。

■農作業中の熱中症に注意しましょう!!

熱中症死亡事故の約85%が7～8月に発生しています。熱中症は正しい知識を身に付けることで、適切に予防することが可能です。

【予防のポイント】

✓高温時の作業は避けましょう。

- ・農作業中の熱中症による死者数を年代別に見ると70代以上が約9割を占めています。高齢者は特に注意が必要です。

✓単独作業は避けましょう。

- ・なるべく2人以上で作業し、時間を決めて声をかけあったり、異常がないか確認しあうようにしましょう。

✓20 分おきに休憩&水分補給をしましょう。

- 涼しい日陰などで作業着を脱ぎ、体温を下げましょう。のどが渴いていなくても、20 分おきに毎回コップ 1～2 杯以上を目安に水分補給しましょう。

✓熱中症対策アイテムを活用しましょう。

- 帽子や吸湿速乾性の衣服を着用することや、空調服や送風機、ウェアラブル端末などを活用し、熱中症リスク回避をしましょう。

■大区画化等加速化支援事業(国庫補助事業)の要望量調査が実施されています！

水田の区画が小さく、作業が非効率となっている農業者等が、自ら取り組む畦畔除去や区画の拡大を国が支援します。詳細は、下記までお問い合わせ下さい。

※助成額の例：畦畔除去のみを行う場合、4万円／100m（直営、請負とも）

お問い合わせ先：

宮城県大区画化等推進協議会事務局 ☎022-263-5816（宮城県土地改良事業団体連合会内）

.....